

異常な行動

識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動発現時刻	就寝中か否か (就寝中:○、就寝 中じゃない:×)	覚醒直 後に発現	就寝中の場合、 就寝時刻から発 現までの時間	回復までの 時間	一眠りして 完全回復	体温	患者の記憶	睡眠覚醒症 等の既往	睡眠覚醒症 等の家族歴	光に対する 反応	他剤による 「異常な行 動」の副作用 歴	異常な行動に関 する既往歴	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、 親が幻覚を見ていたよと言っているのか?)	旧資料No			
189	B06024434	14	年	女性	転倒	2007/2/16	昼	2007/2/16	12:46	-	-	-	-	-	-	-	-	無	2007/2/15 朝から寒気あり、夜より発熱。 2007/2/16 (9:43)当院受付にいた。受診。体温38.2℃、咳が少し、鼻水が少し、 喉の痛みを訴えていた。診察時、異常な言動はみられず、精神・神経系の異常 はなかった。(10:00頃)インフルエンザB型と診断、タミフル、ユニブロン坐薬、PL 顆粒、マーズレンSを処方され、タミフルを内服した(1回内服)。(12:46)自宅マン ションより転落のため、他院に救急要請あり。(12:56)救急隊到着し心肺停止の 状態。(13:03)病院着、心肺蘇生(採血を行った)。反応せず。(13:34)死亡確認。 警察による検案あり。剖検は同意を得ず。 <新聞記事の情報> 2007/2/16 午前病院で受診後、母親と一緒に帰宅。本剤を服用して静養して いた。(12:45)自宅マンション敷地内で血を流して倒れているのを発見された。自 宅前の通路の手すり(高さ1.4m)から1階駐輪場の屋根に転落後、地面に落ち た。母親は出かけたため、転落当時は一人だった。患者は黒色の上下のスエー ト姿で、靴は履いていなかった。患者は全身を強く打ち病院に搬送されたが約1 時間後に外傷性ショックで死亡。	異-1-122			
190	B06024795	14	年	男性	①異常行動 ②転倒	2007/2/26	18:30	2007/2/27	1:20	○	-	覚醒後すぐに発 症	No	No	-	Yes	-	-	無	2007/2/26 朝、受診。38.9℃。「首が痛い」と訴えており、のどが真っ赤であ った。クラスでインフルエンザが流行していると言っていたので、インフルエンザB 型と診断。意識状態についてはわからない。既往症、合併症は未確認。初診で はないため、問診表なし。タミフル75mg×2回/日(5日分)、カロナール200mg12錠 (3日分)処方。 2007/2/27 (1:47)救急車にて病院に搬送。受診時心肺停止状態。JCS300。顔 面は陥没骨折、上顎、下顎骨など原形を留めず、マスク換気とともに耳出血が 噴出する状態。四肢も多発性の開放骨折。心肺蘇生を試みるが、全く反応な し。 (2:01)死亡確認。 <新聞記事からの情報> 2007/2/26 (9:30頃)タミフル75mg内服。(18:30頃)タミフル75mg内服。 2007/2/27 自宅マンション11階より飛び降り、転落して死亡した。夜中に目を覚 まして母親を起こし、居間で薬を飲もうとしたが、前の服薬から所定の8時間が たっており、服用を見合わせた。(1:20頃)その直後、「トイレに行く」と言って居 間を離れ表に出た。玄関の鍵を外す音に母が気付いて後を追うと、患者は玄関 前の外壁に無言で足をかけて乗り越え、転落したという。頭などを強く打ち、市 内の病院に運ばれたが、間もなく死亡した。	異-1-97		
191	B06025006	14	年	男性	異常行動	2007/2/17	17:00	2007/2/17	20:30	-	-	-	15分	Yes	発熱持続	No	No	No	-	No	無	1階にいた母が2階が騒がしいことに気がつき見に行ったら、患者がクローゼッ ト内に座り込んでいた。その後走り回ったり、階段の手すりに足をかけたり、顔を かきむしるような動作があった。これらの行動が母が行ってから10分程度続い た。救急要請。救急到着時は意識清明。	異-1-102
192	B06025685	14	年	男性	異常行動	2007/2/25	19:00	2007/2/25	23:00	○	Yes	約4時間後	1時間	Yes	発熱持続	No	-	-	-	-	無	(2007/2/25 23:00)トイレに行こうとベッドから立ち上がったら倒れた。 トイレ付き添って行くもトイレの中、壁に向かって排尿し、ふらふら歩き 出し、台所の床に倒れる。 (2007/2/26 15:00)異常行動回復。	異-1-121
193	B06026126	14	年	男性	①意識消失 ②異常行動	2007/02/23	夕方	2007/02/25	AM3:00頃	○	Yes	-	5・6分	Yes	発熱持続	No	No	No	-	No	無	突然起床。家族はトイレに行くのかと思っていたら、トイレを通り過ぎ玄関ドアの 前で意識消失し転倒。その衝撃音で家族に発見される。意識消失は2〜3分間。 その間痙攣は認めない。 後頭部打撲。	異-2-1
194	B06026444	14	年	男性	異常行動	2007/2/23	19:00	2007/2/23	21:00	×	No	-	3時間	Yes	発熱持続	No	-	-	-	No	無	2007/2/23 (3:00)38.5℃。(10:00)37.5℃。インフルエンザA型と診断。(19:00)夕 食後、タミフル75mg服用。(21:00)「落ちつかない」「外へ出る」と外へ出ようとし た。家人が気付く、手をつかむことにより外出は阻止できた。異常行動発現。 (24:00)3時間程落ちつかなくなったが、ようやく就寝できた。 2007/2/24 (7:00)平常に戻る。異常行動回復。37.0℃。インフルエンザ軽快・回 復。	異-2-5
195	B07000153	14	年	男性	①意識消失 ②異常行動	2007/3/7 2007/3/7	不明 18:30	2007/3/8	6:35	-	-	-	少なくとも2 〜3分以上	Yes	発熱持続	No	No	No	-	No	なし	2007/3/7(10:00頃)(学校)2時間目頃より発熱。早速し近医受診。インフルエンザ B型と診断。タミフル1回目75mgをすぐ内服。(18:30)タミフル2回目75mgの服用。 2007/3/8 就寝した時間起きた時間は不明だが、6:35分には起きていた。(6:35) 異常行動、意識障害発現。子ども部屋からのうめき声を母親が聞く。部屋に行っ てみると当該患者がベッドで座位をとり、窓から身を乗り出してうめき声を発して いた。しばらくして落ち着いたが、その後一人でトイレに行き、排尿をしている間 に意識消失。2〜3分程度継続。救急車により当院に搬送される。(7:40)当院到 着。到着時には、意識は回復していた。本人にそのときのことを確認すると、苦 しい気がしたのでうめき声を発したが、窓から身を乗り出したことには記憶 がないとのコメント。異常行動、意識障害回復。念のため静脈ラインを確保し入 院。 2007/3/9 朝より解熱。入院後、異常行動なし。頭部CT検査を行い異常なし。 退院とした。	異-2-32
196	B07000156	14	年	女性	異常行動	2007/3/18	夕方	2007/3/19 2007/3/19	夜中 午前	-	Yes	-	10分	Yes	発熱持続	No	No	No	-	No	無	2007/3/18 患者は部活の遠征先で、インフルエンザを発症。(夕方)他院処方 により、本剤75mg投与。 2007/3/19 (夜中・午前中)異常行動(夜中急に走り出して倒れた)発現。(発現 10分後)異常行動回復。当院受診。	異-2-33
197	B07000162	14	年	女性	異常行動	2007/2/3 2007/2/3 2007/2/4 2007/2/4 2007/2/5 2007/2/5 2007/2/6 2007/2/6 2007/2/7 2007/2/7	朝 21:00	2007/2/3	23:00	○	Yes	2時間	10分	Yes	発熱持続	No	No	No	No	No	不明	2006/2/3 (朝)A型インフルエンザ治療のため、タミフル投与開始(75mg×2/ 日)。(21:00)夕方の本剤75mg内服後、就寝。(23:00頃)突然起き上がり、声を出し ながら(内容は不明)2階の窓より階下へ飛び降りた。この際母親が同室にいた が、突然の行動のため制止することができなかったとのこと。直後に両親が庭で 患児が腰を打撲して、座っている状態を確認。ボーッとしている状態であった が、話しかけには返事をしていたとのこと。そのまま就寝させ、翌日には意識は 全く清明であった。 2006/2/7 タミフル投与終了。 2006/2/8 インフルエンザ軽快・回復。 2006/2/13 腰痛は特に処置せず、約10日後で軽快した。 2007/3/24 異常行動回復。(医師の転帰確認日)	異-2-34
198	B07000206	14	年	男性	異常行動	2007/3/6	10:30	2007/3/6	14:00	○	Yes	-	2〜3分	Yes	発熱持続	Yes	No	-	Yes	-	無	(10:30)本剤75mg投与。(14:00頃)寝ていたところ突然起き上がり、部屋中を手を ゆさぶり歩き回すが、呼びかけには答えず。2〜3分で落ち着いた。投与薬剤全 て中止。入院にてST3輸液で経過観察した。(翌日)未明に突然起き上がり、上 肢を1分程バタつかせることがあったが、その後はみられなくなった。	異-2-38